

第26回通常総代会挨拶



たきかわ農業協同組合

代表理事組合長

山 岸 穰

第26回通常総代会に出席頂きました総代の皆様ありがとうございます。また日頃より、農協事業にご協力を頂いております事にお礼申し上げます。

昨年の農畜産物の状況は、一年を通して比較的穏やかな天候であったことから、概ね豊作の年になりました。水稲は作況指数103の「やや良」となり、品質は低タンパク米も平年より多い年になった中、米穀合計では193、004俵の集荷実績となりました。うるち米の異常高値により、商系と系統概算金との価格差が開き、JA集荷は非常に厳しいものになりましたが、そのような中でも出荷いただきました生産者の皆様に御礼申し上げます。小麦は、穂数が平年並みに確保され順調に進み、収穫期においても大きな倒伏の発生は見られず順調に進みましたが、「なまぐさ黒穂病」、「赤さび病」の発生もあり、品質の低下が一部で見られました。小麦全体では54、993俵の取り扱いはになりました。菜種は「ペノカのしずく」へ品種切り替えした年になりましたが、従来品種と遜色のない実績となりました。大豆は、開花期以降の気温が高く経過し、適度な降水量であったことから、収量と品質も良い実績となりました。園芸作物は、高温障害の発生はありませんでした。作付面積が減少した品目もあり、取り扱い数量は計画を下回る実績となりましたが、市況が高値で推移したことから、取扱

高では計画を上回りました。酪畜は、生乳頭数が減少しましたが、夏場の乳量が大きく落ち込まなかった事や乳価回復もあり、計画を上回る実績となりました。牛肉では、出荷頭数が減少したこと、市況価格が低調で推移したため販売価格が減少しました。

令和2年産の共計費用の処理につきましては、8月末で承諾を頂き、11月に処理する事が出来ました。ご理解を頂きありがとうございます。

本年の事業につきましては、当期剰余金1億2千2百万円、当期末処分剰余金1億9千4百万円の実績となりました。子会社のJAたきかわサービスの当期純利益は2千4百万円となりました。本年度の計画では、滝川バラ化施設小麦調製ラインの更新に2億8千5百万円、議案にもありますが芦別給油所の改修9千3百万円、江部乙給油所買取8百万円の固定資産取得を計画しています。この様な状況の中、毎年組合員の減少により出資金が1年間で、4千万円から5千万円ずつ減り続けております。固定資産の取得、修繕に当たつての自己資本の強化のためにも出資金の増口をお願いしてまいります。また、これまでは総合農協として部門間収支を補ってきたところですが利益の確保が出来ていた部門の事業利益の見込みが厳しくなっております。事業利益を安定的に確保していくことが必須のものであり営農賦課金の見直しについて、翌年度、総代会の議案提出に向けて協議を進めてまいります。本年はJA第9次3カ年計画の2年目であり組合員の「農業所得の向上」に向けた取り組みと、事業利益の安定的な確保が大きな柱であります。これからの農業情勢は大きく変わって

いく事が予想されます。行政・関係機関との連携のもと事業を進めて参ります。今後とも組合員皆様の変わらぬご理解とご協力をお願い致します。最後に今年の秋の豊穰と組合員皆様のご健勝をご祈念申し上げご挨拶とさせていただきます。

第26回通常総代会

4月8日(火)午後1時30分よりホテル三浦華園にて、第26回通常総代会が開催されました。

総代総数169名のうち出席総代数は136名となりました。136名の内訳として、本人出席71名、書面議決63名、委任状2名。

開催宣言、JA網領朗唱、組合長の挨拶の後、議長選任が行われました。議長選任では、仮議長である山岸組合長が、佐々木智康総代(滝川地区)、吉本政史総代(赤平地区)両名を指名しました。

その後、議長の取り進めにより議事に入り、議案第1号から第8号まで、原案通り可決決定となりました。



議長 佐々木智康氏／吉本政史氏